

# 「大歩危」が国指定の名勝へ

【お問い合わせ先】

三好市教育委員会 文化財課  
(電話7213910)



## 指定の概要

- (1) 名称 大歩危
- (2) 所在の場所 三好市山城町西宇～三好市西祖谷山村徳善西
- (3) 指定面積 36,022.12㎡
- (4) 指定基準 「名勝 六 峡谷、瀑布、溪流、深淵」

写真上 後藤新平の句碑、写真下 大歩危の岩肌 ▲水面より望む大歩危

国の文化審議会（宮田亮平会長）は6月19日、三好市を代表する景勝地「大歩危」を国の名勝に指定するよう文部科学大臣に答申しました。

今後、官報告示を経て、国指定名勝に指定される予定です。これにより、国指定名勝の総数は、396件、徳島県では、鳴門（1931年2月指定）、旧徳島城表御殿庭園（1941年12月指定）、阿波国分寺庭園（2000年3月指定）に続き4件目になります。

## ■名勝とは

名勝とは、文化財保護法で規定された文化財の種類の一つで、特に趣のある自然景観や名所、芸術的あるいは学術的価値が高い公園や庭園、橋梁、渓谷、海浜、河川などを、その保存・活用を目的として国または地方公共団体が指定するものです。

## ■指定の経過

大歩危は2～1億年前の海底の地層が、海洋プレート沈み込みで地下深くに押し込まれ変成を受けた後、四国山地として隆起し、吉野川の浸食によって姿を現した貴重な場所です。吉野川の両岸で見られる岩石や地層の様子から、日本列島の成り立ちを知ることができる国内でも希少な場所として、2014年3月18日に国の天然記念物（地質鉱物）に指定されています。

市教育委員会では、国の天然記念物に指定されたことを受け、大歩危が著名になった経緯を文献で調べるなどして資料をまとめ、1月27日に文化庁に名勝の意見具申を行い、今回の答申となりました。

## ■指定の概要

四国山地を流れる吉野川中

流域の大歩危・小歩危の1帯は、古くから通行の難所として知られてきました。明治時代以降は、河岸に道路や鉄道が開通したこと、観光地としても認知度が高まり、深く澄んだ川の水と切り立った岩壁からなる風致に富んだ溪流は多くの人が訪れる景勝地として有名になりました。また、明治末期には、逓信大臣（兼鉄道院総裁）の後藤新平が人力車にて大歩危小歩危を通過し「岩に題す天下第一歩危の秋」の句を残したほか、多くの著名人が大歩危・小歩危を訪れ知名度はさらに

に高まりました。昭和2年には小歩危とあわせて「日本百景」に選ばれるなど親しまれ、名実ともに日本を代表する景勝地となりました。

名勝の指定範囲は、天然記念物「大歩危」と同一範囲で国指定名勝と国指定天然記念物の重複指定は県内初です。今後市では、小歩危の名勝と天然記念物への指定も目指し、来年度から現地調査を進める予定です。また、道の駅大歩危では、大歩危の古い絵や写真を展示するなど歴史や文化的価値に光を当てる企画展を開催する予定です。

## 「大歩危」が国指定の名勝へ



全国的にも珍しい「大歩危」のダブル指定

徳島大学大学院教授  
(徳島県文化財保護審議会会長)  
石田 啓祐 さん

この度は、「大歩危」国の名勝・天然記念物ダブル指定おめでとうございます。国指定に向けた三好市の皆さまのご理解とこれまでの取り組みに敬意を表します。徳島県内の国指定天然記念物は現在37件、そのうち地質関連が4件ありますが、「名勝」にダブル指定されるのは全国的にも珍しく、県内では「大歩危」が初めてです。このことから大歩危の学術的評価と景観的価値の高さがわかります。全国的に高い「大歩危・小歩危」の知名度が、今回のダブル指定により名実共にさらにアップすることでしょう。海外からの観光客も増え、今後は「小歩危」も視野に入れて、その見所と価値が、国の内外に広く高く紹介されますように、ますますのご理解とご支援を期待しています。



夢膨らむ「大歩危」の国指定名勝

徳島県観光協会理事長  
清重 泰孝 さん

徳島県民の自慢であり誇りの一つ「大歩危」が、国の名勝に指定されたことは、昨春の国指定天然記念物に次ぐ大きな朗報であり、地元三好市民の皆さま方には心からお慶び申し上げます。

同時に、徳島県観光協会と致しましては、この指定を弾みとして大歩危や祖谷地区をはじめとする「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」に国内外から多数のお客様をお迎えし、送客したいと考えています。

「阿波とくしま観光かるた」には、「礫岩片岩・眺め大歩危・川下り」や「爽快な・大歩危トロッコ・汽車の旅」、「ラフティング・大歩危峡は・そのメッカ」と詠っています。「世界ラフティング大会」開催決定の次は「世界自然遺産指定」、夢は大きく膨らんでいます。

# ラフティング世界大会

## 大歩危で2017年開催が決定



【写真上】世界選手権大会開催決定を祝うジョー・ウィリー・ジョーンズ会長と黒川市長ら

【写真左】大歩危での世界選手権大会開催決定を喜ぶラフティング関係者ら。開催の決定を受け会場からは拍手と歓声



急な流れや安定した水量から国内屈指のラフティングスポットとして知られている大歩危・小歩危一帯の吉野川上流域で、誘致を進めていた2017年の競技ラフティング世界大会「ラフティング世界選手権」が開催されることになりました。

6月20日から21日の2日間にわたり開催された「大歩危リバーフェスティバル2015兼第2回全日本レスラフティング選手権大会」では、世界ラフティング協会のジョー・ウィリー・ジョーンズ会長が訪れ、日本代表選考レースや宿泊施設、選手の輸送など運営状況を視察しました。

表彰式の後には、会長から「2017年世界ラフティング世界選手権をここ吉野川で開催することを正式決定しました」と報告すると、会場からは大きな拍手と歓声が巻き起こりました。その後、招致決定のセレモニーが行われ、世界ラフティング協会会長と黒川市長が書面にサインをした後、くす玉を割り開催決定を祝いました。



【写真右】ダウンリバーレースで次々とゴールする選手ら  
【写真下】日本代表に選ばれ活躍を誓う地元女子チーム「ザ・リバーフェイス」。水澤主将(左から2番目)からは「まずは、インドネシアでの世界選手権で結果を残し、2年後の地元開催に向けてチームを盛り上げられる存在でいたい」と決意を語ってくれました。



【写真左上】レース「H2H」で接戦を繰り広げる選手ら

【写真上右】開催が決まり書面にサインするジョー・ウィリー・ジョーンズ会長と黒川市長

【写真左】飯泉知事に世界大会開催を報告する黒川市長ら



### 「大歩危」で世界ラフティング大会開催へ



過去最高の大会になることを期待します

世界ラフティング協会会長  
ジョー・ウィリー・ジョーンズさん

実際に川の水量や地形などを見させていただいたが、見たものすべてが期待に応えるものでした。ここに来て、なぜいつも日本の選手が世界大会でいい成績を残せるのかがわかりました。また、決定要因の1つとして地元のサポートが素晴らしかった。これまでで一番素晴らしい大会になると期待しています。



大歩危小歩危は世界に誇れるコースです

日本レスラフティング協会理事  
池田拓也さん

吉野川は水がきれいでもレスキューがしやすく、大歩危小歩危で設定できるスラロームやダウンリバーなどのコースはメリハリがありフィジカル要素も非常に問われるまさに世界に誇れるコースです。吉野川を通じて日本を楽しんでいただけるよう大会本番まで関係者が一丸となって環境を整えたいと思います。



吉野川の素晴らしさを世界に発信していきたい

世界選手権招致委員会委員  
大歩危リバーフェスティバル副実行委員長  
西村 洋子さん

8年前から吉野川の素晴らしさをいつか世界にアピールしたいという思いから、多くの皆さまに支えられながら続けてきた大歩危リバーフェスティバル。決定を受け、これからもっとたくさんの方の協力をいただきながら世界に誇れる美しい吉野川を発信していきたいと思っています。

2015年の12月にインドネシアで開催される世界選手権の日本代表選考会として行われた今回の大会では、地元の女子チーム「ザ・リバーフェイス」をはじめ、男子ジュニア・オープン・マスターズ部門のそれぞれの代表チームが決定しました。また、8回目を迎えたリバーフェスティバルでは、大歩危マールシェと題した地元の特産品やご当地グルメが揃った産直市やアユの放流体験など楽しいイベントが開催され、とてもにぎやかな2日間となりました。

競技ラフティングはゴムボートで激流をいかに早く正確に下れるかをタイムで競うスポーツです。日本初開催となる2017年の「ラフティング世界選手権」では、約30か国70〜80チームの参加を目指し、選手や観客ら1000人以上の来場が見込まれるといわれています。

今後市では、外国人観光客が訪れやすいよう外国語表記の案内看板の整備など基盤整備を進めていくとともに、実行組織を立ち上げ、大会の成功に向けて準備を進めていきます。